看護師を疲弊させるな

茨城

三浦馨

新型コロナウイルスワクチンの接種が本格化するにつれ、注射の担い手となる医療従事者の不足が問題となっている。とりわけ茨城県は、人口10万人当たりの看護師数が765・5人で全国ワースト4位（平成30年）と深刻。接種を担当する看護師が足りず、大井川和彦知事が5月20日の記者会見で「看護職が大変不足している。ご協力を」と呼びかける事態となった。

募集の窓口となったのは、県看護協会が看護師への就職先紹介のため運営する県ナースセンター。13市町で計約120人の看護師が不足していたが、資格を持ったまま現場を離れた「潜在看護師」らが手を挙げ、ようやく枠はほぼ埋まった。

看護師不足はなぜ生じるのか。茨城には隣接する東北地方出身の看護師が比較的多く、県看護協会の白川洋子会長は「経験を積んだ看護師がやがて故郷に帰るか、他県へ移っていくのではないか」とも推測する。

県保健福祉部が離職経験のある県内約1万3700人の看護師資格保持者に行ったアンケート（平成30年）では、「結婚、妊娠、出産、子育て」が離職理由のトップだった。だが、現在はコロナ禍が離職へいっそう拍車をかけそうな気配だ。

日本看護協会による令和2年の「病院看護実態調査」によれば、元年度の県内看護職員（保健師、助産師らを含む）の離職率は12・1％（回答76施設）。前年度の9・0％（同68施設）を約3ポイント上回った。全国平均でも離職率はアップし、同協会は「新型コロナの感染初期（令和2年1～3月）の影響が及んだ可能性もある」と分析する。

県内のある中核病院では患者や医療従事者にクラスター（感染者集団）が発生、混乱を極めた。「看護師が『辞めたい』と毎日、毎日部屋に来る」。県看護協会の白川会長は、同病院看護部長の悲痛な声を聞いた。

災害看護の第一人者である神戸市看護大の南裕子学長は、「やる気のある看護師ほど、多忙な現場では身体も精神も燃え尽きてしまう」と語る。

「苦境が長引くと職場への不信感も出てくるが、そうした悩みは内部の人には相談しづらい」として、各都道府県のナースセンターなどに看護師の〝駆け込み寺〟的な役割を果たす相談窓口の常時設置を提案する。

経験を積んだ看護師は勉強を重ねれば、がんなどの専門分野で能力を発揮できる「認定看護師」や、大学院で高度な実践技術を身に付けた「専門看護師」、「診療看護師」への道もある。「こうしたスキルアップは看護師の自信になり、職場への定着率のアップにもつながる」と広島大大学院の森山美知子教授（成人看護開発学）はみる。

一方で養成機関の数が限られ、学費も高く、学修期間も長くかかることから休職や退職を余儀なくされる場合もあり、「そうしたハードルの高さを解消し、多くの看護師が資格を取得できるよう制度の工夫が必要」と森山教授は指摘する。

水戸市内では、看護師募集の広告が大書された茨城交通の路線バスが市民の目を引いている。県看護協会が平成30年から掲出中のラッピング広告で、主なターゲットは高校生。効果は未知数だが、「これからは人生100年時代。70代まで活躍できる看護師が育てば」と白川会長は若い力にも期待している。

人口10万人当たりの看護師数（都道府県別）

	順位	都道府県	看護師数
ベスト5	1	高知	1511.0人
	2	鹿児島	1394.3
	3	佐賀	1335.4
	4	長崎	1319.2
	5	熊本	1309.7
	…	…	…
ワースト5	43	東京	792.3
	44	茨城	765.5
	45	神奈川	738.4
	46	千葉	722.7
	47	埼玉	693.6

※厚生労働省「平成30年衛生行政報告例の概況」から

茨城県看護協会が看護師募集を呼び掛けるラッピングバス＝水戸市内